

○事業所名	アイビー米子教室			
○保護者評価実施期間	2025年3月9日		～	2025年3月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数)	13名
○従業者評価実施期間	2025年3月24日		～	2025年3月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	3名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>●運動療育を中心とした成長支援と個別対応 小集団でのサーキットトレーニング等の運動療育を通じて、体幹の向上や「失敗しても再挑戦できる」自己肯定感を育む支援が強みです。一人ひとりの発達段階や特性を捉え、無理なく楽しく身体を動かしながら、達成感を得られるような専門性の高いアプローチを実践し、保護者様から評価を頂いています。</p>	<p>子どもたちが飽きずに活動へ参加できるよう、週や月単位で運動プログラムや機材の配置等に意図的な変化を持たせています。また、小集団の中でルールや他者との関わりを学ぶ集団活動と、個々の身体機能や達成感を高める個別課題をバランス良く組み合わせ、その日の状態に合わせた難易度調整を行っています。</p>	<p>多様な運動プログラムが「いつも同じ」と誤解されないよう、各活動が持つねらい（体幹強化やバランス感覚の育成等）をより明確に発信します。また、事業所内での支援の質をさらに高めるため、引き続きスタッフ間で支援後の振り返りを徹底し、日々の小さな変化や成功体験を次のプログラム立案に活かしていきます。</p>
2	<p>●関係機関への支援共有を通じた支援基盤づくり 現在ご利用中の保育園や学校等に対して、保護者様のご意向に応じて当事業所での様子や支援内容をまとめたレポートを作成・共有している点です。施設内での支援にとどまらず、お子様が日中過ごす関係機関へ情報を提供することで、一貫した支援に繋げるための土台づくりに取り組んでいます。</p>	<p>日々の運動療育の中で「着席を保つ」「集団の指示を聞く」といった、園や学校生活の基盤となる要素を自然な形で組み込んでいます。その状況や、事業所での変化の過程をレポートにまとめ、学校側がお子様の特性を理解するための参考資料として提供しています。</p>	<p>現在は事業所からのレポート共有という一方の情報提供が主となっているため、今後は必要に応じて関係機関の先生方と直接情報交換を行うなど、双方向の連携へと段階的に深化させます。事業所と園・学校が互いにお子様の様子を共有し、より連携の取れたサポート体制を構築していくことを目指します。</p>
3	<p>●日常的な発信を活かした開かれた事業所運営 日々の細やかなコミュニケーションと、SNSを通じた日常的でオープンな活動報告ができていた点が強みと考えています。送迎時の様子伝えやSNSを活用した日々の活動の視覚的な発信がご家族の安心感に繋がり、高い満足度と信頼関係の構築に結びついています。</p>	<p>お子様が事業所で見る「楽しそうな笑顔」や「真剣に取り組んでいる姿」を写真や動画で記録し、Instagram等で定期的に発信しています。保護者様が直接見学できなくても、SNSや提供記録を通じて日々の小さな成長や支援の様子をタイムリーにお届けし、ご家庭での会話が広がるよう工夫しています。</p>	<p>今後はSNSでの日常的な活動報告に加え、ご家庭で簡単に実践できる運動遊びのヒントや、発達特性に応じた関わり方のコツなど、保護者様の子育てに役立つ情報発信をさらに充実させます。日常のツールを最大限に活用し、事業所とご家庭が連携して子どもの成長を支え合える、身近な家族支援の形を追求していきます。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>●安全管理・非常時対応の「見える化」 事故防止や感染症等のマニュアル策定、および非常災害訓練の実施について、アンケートで「実施されているかわからない・いいえ」との声がありました。子どもたちの命を守る安全管理の取り組みが保護者様に十分に伝わっておらず、不要なご心配や不安を与えてしまっている点が事業所の課題です。</p>	<p>法令に基づき事業所内部では各種マニュアルの整備や定期的な避難訓練を適切に実施しているものの、その実績や内容を「保護者様へ報告・発信する」という仕組みが抜け落ちていたことが最大の要因です。利用開始時の説明のみで、日々の運営の中で安全への取り組みを可視化する意識が不足していました。</p>	<p>今後は各種訓練実施後に「どのような想定でどう避難したか」を提供記録やSNSで報告し、見えない安全管理を可視化します。また、各種マニュアルや安全計画についても発信することで、保護者様に安心してお子様をお預けいただけるよう改善します。</p>
2	<p>●支援計画の具体性と丁寧な説明の不足 児童発達支援計画において、必要な項目が適切に設定されているかという問いに対し、幾つかご意見が見られました。計画の内容が一般的・専門的になりがちで、事業所での日々の活動が「本人・家族・将来への移行」の目標にどう繋がるのかという具体的な道筋が、保護者様に納得感を持って伝わりきっていません。</p>	<p>スタッフ間ではお子様の特性やプログラムの意図を理解していますが、計画作成や面談の際に保護者様が日常生活に落とし込めるような「分かりやすい言葉」に翻訳して説明する配慮が足りませんでした。また、計画の意図を保護者様と深く共有するための対話の時間も不足していました。</p>	<p>計画作成時のヒアリングを丁寧に行い、「事業所で何をやるか」「家庭とどう連携するか」「将来に向けて何をやるか」の3本柱を明確にします。専門用語を極力避け、日々の運動プログラムがどの個別目標に繋がっているのか、保護者様が納得できる具体的な分かりやすい言葉でのご説明をスタッフ全員で徹底します。</p>
3	<p>●家族支援プログラム・保護者交流機会の拡充 家族に対してペアレント・トレーニング等の専門的な家族支援プログラムや、保護者同士・きょうだいが交流できる機会（座談会やイベント等）の提供が十分にできていない点です。ご家族の子育てに対する悩みや負担を軽減し、対応力を高めるための体系的なサポート体制に改善の余地があります。</p>	<p>保護者様向けの勉強会や交流イベントを定期的に企画・運営するための時間的・人的なリソースを十分に確保できていませんでした。また、「家族支援」を事業所の重要な役割として位置づけ、積極的に体系化していく意識が不足していたことが主な要因です。</p>	<p>今後は、日々の送迎時の相談対応に加え、ご家庭で実践できる運動遊びのヒントや発達特性に関する気軽な勉強会等を無理のない範囲で企画します。また、過去に開催した運動会や保護者様同士が悩みを共有できる座談会、きょうだいが参加できるイベントを定期開催し、ご家族全体が孤立せず安心して子育てできる環境づくりを支援します。</p>